

Day 1 Teambuilding

初日は、チームビルディングを兼ねてワークを中心に取り入れた。

与えられたテーマに関する自分の体験や思いを、レゴを使って表現するLego™ Serious Play™や、予め準備してある食材を用いて、チームで晩御飯を準備するEffectual Cooking Using Smart Kitchen Appliancesは、初めて取り組む学生ばかりで、興味を持ち前向きに取り組んでいる様子が見受けられた。

限られたツールを使って、目的を達成しようという姿勢を身につけるトレーニングにつながった。

Lego™ Serious Play™



与えられたテーマに関して、頭の中に浮かんだ思い、アイデアをレゴで創造する



自分の食に関する最高の体験をLEGOで表現し、それを説明し、共有する

Effectual Cooking Using Smart Kitchen Appliances



準備された食材の中から、チームで必要な分を選び取る



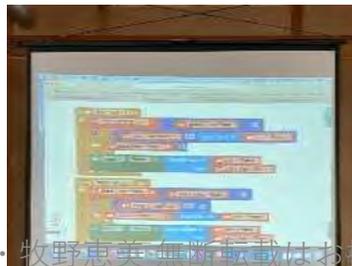
シャープのホットクックを使って仕込んだ食事ができあがるのを待つ

Day 2 Tool Development



自分のアイデアを実装するための一つ的手段として、簡単にアンドロイド端末のアプリを開発する方法を学んだ。(MIT App Inventor)

参加していた学生のうち、ほとんどがアプリケーション開発が初めてだったが、ゲーム形式でプログラムを簡単に組むことができる教材だったため、苦戦しながらも全員デモアプリケーションは作り上げることができた。



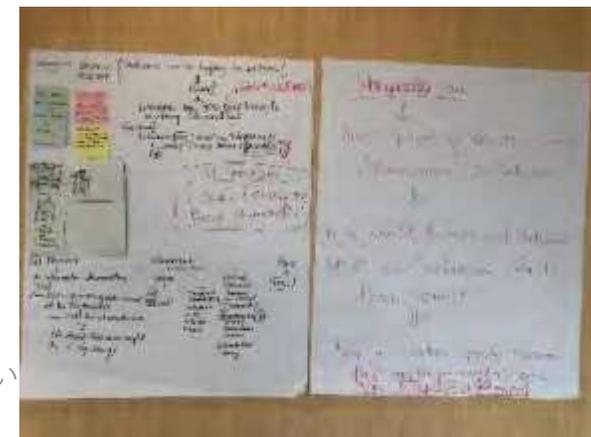
Day 3 Fieldwork Observation

忠海周辺にフィールドワークに出かけ、地域住民で地域活性化の活動をしている方のお話を伺ったり、チームごとに大久野島で観察、インタビューなどを行った。



Day 4 Ideation and Prototyping

実際の起業家のお話を聞き、ヒントを得つつ、Day3にフィールドワークで得た気付きやインタビュー内容を元に、仮説を立てたり、グループごとにアイデアを練る作業を行った。



Day 5 Prototyping and Testing in the Field

再度、竹原・忠海周辺にフィールドワーク出かけ、フェリー会社の方のお話を聞いたり、グループでDay4に立てた仮説やアイデアについて地域住民や観光客に意見を求めたり、アイデアの実装に挑戦した。



Day 6 Final Presentation

全3チームが、大久野島ではなく、対岸の“忠海地域の”の観光資源に着目し、それらを活かす形の成果発表となった。
また、3チーム中2チームが、スマートフォンのアプリを実際に作成し、簡易的な形ではあるがアイデアを実装することができた。



今、この学校で未来を変える。

第3期

ソーシャル

イノベーションスクール

3/1 募集開始！

2021年5月

東京・広島・仙台・青森 同時開講



企業も個人も

誰一人

取り残さない

©2020年日本SDG建設16社 / The Sustainable Development Report 2020より

ついに情報をオープンすることができます。

今年5月、ソーシャル・イノベーション・スクール第3期を開講いたします。

今期は、東京・広島に加え、仙台・青森でも開講いたします。

詳しく内容はこちらをご覧ください。

呉・東広島

地域と産業

第3部 産学連携

①

呉支社 ☎0823(23)5255 FAX(23)4817
 東広島総局 ☎0823(42)2990 FAX(42)0124
 竹原支局 ☎0846(23)2393 FAX(23)0027
 江田島支局 ☎0823(43)0213 FAX(40)0008

編集の技術を強みとする。今年4月からは他の2社と組み、ゲノム編集で作製した創業実験用のモデル動物(ラットなど)の提供を始めた。

同社の技術は、創業者の一人で同大学院の山本卓教授(55)たちが開発しており、知的財産権が明確で使いやすい。奥原啓輔社長(43)は「スピード感を持って事業を拡大し、25年までの新規株式公開(IPO)を目指す」と意気込む。

昨年12月設立のガルスジヤパン(同市)は、市など

今月初め、東広島市安芸津町の海岸。広島大の学生10人を前に、地域おこし協力隊員の同大OBや、意欲的な経営で知られる地元の鮮魚店主が自らの半生を熱く語った。市内をフィールドにした教養科目「地域おこし実習」の初回。本年度からスタートした。

学生は2カ月間、町へ何度も通い、地域課題の解決

よる起業は、2000年から年々増え、今年5月まで76件による。研究成果が素早く実用化されるほか、研究室発の技術を使った事業がライセンス料収入を生み出すことなどから、大学も期待を寄せる。

19年に開業したプラチナバイオ(東広島市)は、狙った遺伝子配列を切断して高い精度で改変するゲノム

目の引くスタートアップの例がある一方、起業の促進にはまだ多くの余地が残されている。経済産業省が20年度に調査した大学別起業数では広島大は全国15位で、地方別の大学発ベンチャーの増加率も、中国・四国は北海道・東北と並んで最も低い。

起業を学生の選択肢に

策や起業案を考える。産学連携推進部の牧野恵美准教授(51)は「どんな企業も、創業者の小さな思いが始まりの一步。多様な生き方を知り、自分ごととしてほしい」と語る。

実習通じて関心

革新的な技術を生かして急成長を目指すスタートアップ(新興企業)や、独自のアイデアで起業するベンチャー。近年、就職以外の選択肢として学生に認識され始めた。地域おこし実習も、起業への関心を高める狙いがある。

広島大の学生や研究者に

地域づくりに携わる広島大OB(右端)の話を熱心に聞く同大生



研究成果の収益化期待

産学連携担当の田原栄俊副学長(56)は「この10年で行政などの支援は格段に整ってきた。学生たちに起業の選択肢を積極的に示していく」と話す。学生や研究者、自治体、企業がネット上でつながるチャットツールを使い、情報交換できる仕組みづくりを進める。

◇(堅次亮平)

5大学と2高専が立地する芸南賀茂地区。知見や技術、人材の宝庫である研究教育機関が、人口減少や高齢化などの課題を抱える地域に向き合い、産業との関わりを通じて貢献する例を見つめる。